

# 令和08年9月（第3回）岩倉市議会定例会

## 一般質問通告要旨

### 1 水野 忠三 議員

- 1 持続可能な岩倉市の都市経営について、財政・人口・都市・産業・福祉の好循環と戦略的投資・行政DX等を中心に問う
  - (1) 財政・人口・都市・産業・福祉を一体的に捉えた好循環型の都市経営をさらに進めるべきと考えるが、現状及び見解は。
  - (2) スマートインターチェンジを核とした企業誘致、物流・産業振興、雇用創出、若者・子育て世帯の定住、人口・税収増加及び防災力向上をさらに進めるべきと考えるが、現状及び見解は。
  - (3) スマートインターチェンジ等の公共投資について、建設費だけでなく将来負担及び人口・雇用・税収・生活の質等への波及効果を含めた投資効果の検証等をさらに進めるべきと考えるが、現状及び見解は。
  - (4) 行政DX・AIによる業務効率化、職員の生産性向上及び行政コスト削減等をさらに進めるべきと考えるが、現状及び見解は。
  - (5) DXによって生み出された財政的・人的余力を、子育て、教育、防災、福祉等へ再配分する仕組み・取組等をさらに進めるべきと考えるが、現状及び見解は。
  - (6) 主要な施策等についてKPI・アウトカムを設定し、成果を予算編成及び政策評価に反映させる仕組み・取組等をさらに進めるべきと考えるが、現状及び見解は。
  - (7) 「投資→人口・雇用・税収・生活の質向上→財政基盤強化→再投資」という好循環を実現するための基本的な方針等は。
  - (8) 岩倉市の財政基盤を強化し、その成果を市民サービスへ還元する都市経営改革を今後ともさらに推進すべきと考えるが、見解は。また、市民へのメッセージは。

### 2 井上 真砂美 議員

- 1 認知症サポーター養成講座を通して
  - (1) 認知症予防についての考え方で、ライフスタイルの改善により、発症のリスクや進行をゆるやかにするとは具体的にどんなことか。
  - (2) 何らかの役割をもって社会貢献するとは、どんな役割を想定しているか。
  - (3) 社会的孤立を防ぐためにどんな工夫をしているか。
  - (4) フレイルと認知症の違いはどのようなか。
  - (5) 孤食・孤立対策として、学校給食会を開いてはどうか。
- 2 地域学校協働活動について
  - (1) 地域学校協働活動の一員になる条件はどのようなか。
  - (2) 会員同士の交流はどのように行っているのか。

### 3 給食試食会について

- (1) ふれあい給食会や学校給食試食会は、どのように計画されるのか。
- (2) 給食センターへの食数申し込みや変更はいつまでに必要か。

### 4 防火設備や避難器具について

- (1) 公共施設や学校等の防火扉や救助袋・避難はしご等の設置状況はどのようなか。
- (2) 救助袋や避難はしごを使つての訓練はどのように対象者を決めてどう行っているのか。
- (3) 実際に活用できているかの確認はどうしているのか。

## 3 木村 冬樹 議員

### 1 交通権が保障された地域公共交通で誰もが安心して移動できるまちづくりを

- (1) 本市は交通権というものをどう捉えているか。また、欧州諸国で徹底されている「クロスセクター・ベネフィット」という考え方への見解はどうか。
- (2) 国土交通省は「交通空白」地区が国土の3割に広がっていることを明らかにしたが、本市の現状はどうか。また、先の特別国会で「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律」が成立したが、本市はどのように対応しているのか。
- (3) ふれ愛タクシー事業は利用者が増加してきているが、運転者不足は解消されてきているのか。また、この事業の現状及び発展方向をどう考えているのか。
- (4) 今年度の施政方針で述べられた「外出支援と交通空白地域の解消のための地域交通の充実」をどう具体化していくのか。一宮市・稲沢市・本市の「交通勉強会」や3市共同によるアンケート調査などの取組状況はどうか。
- (5) 既存の地域交通、ふれ愛タクシー事業、誰でも乗れるコミュニティバスなど、交通権が保障された地域公共交通ネットワークの構築が必要と考えるが、市の見解はどうか。

### 2 子どもたちの成長・発達を保障し、保護者の就労を支援する放課後児童クラブの役割をどう発展させていくか

- (1) 民間委託に向けての進捗状況はどうなっているか。その中で、メリットとされた部分は確保できているのか。
- (2) 市民周知や保護者への説明はどのように行われているのか。
- (3) 第2子以降の利用手数料の減免制度を求める。

### 3 コミュニティ・スクールの役割と意義を考える

- (1) 岩倉団地内で立て続けに起こった子どもによるいくつかの問題事例を教育委員会はどうか捉えているか。
- (2) その際の学校の対応は正しかったと考えているのか。
- (3) 岩倉東小学校のあまりにも劣悪なトイレの環境をどう考えているのか。

- (4) 小中学校の大規模改修の時期と関係なしに、応急的に修繕できるものはやるべきではないか。

#### 4 アジア・アジアパラ競技大会への本市の対応はどうか

- (1) 先の臨時議会で可決した観戦事業の進捗状況はどうか。
- (2) 職員の派遣など、大会運営に関して本市への要請などはあるのか。

### 4 日比野 走 議員

#### 1 各種アンケート対象者の抽出方法について

- (1) 介護分野を含む各種アンケート対象者の抽出作業は、部署ごとに独自に行っているのか。
- (2) 調査結果の信頼性を確保するための、内部基準やガイドラインは存在するか。
- (3) 過去にアンケート対象者の抽出方法を改善した事例等はあるか。
- (4) 当局全体として各種アンケート対象者の抽出時に世帯情報を付与し同一世帯の重複を適切に調整するなど、特定世帯に過度に集中しないよう配慮した抽出体制を整えることは出来ないか。

#### 2 不登校支援について

- (1) 本市の不登校児童・生徒数と、そのうち教育支援センター「おおくす」を利用している人数は。
- (2) 学校内に設置した不登校支援教室等の利用人数や状況を問う。
- (3) 本市ではどのような不登校対策をしているか。
- (4) 地域協働による不登校児童・生徒に対する理解への考えは。
- (5) コミュニティ・スクールの中で不登校対策を行う考えはないか。

### 5 谷平 敬子 議員

#### 1 災害時に安心して使えるトイレの確保について

- (1) 安全・衛生・プライバシーを含めた災害時のトイレ環境整備について、どのように考えているのか。
- (2) 自動ラップ式トイレを防災備品として導入してはどうか。

#### 2 災害時の生活用水を確保する「防災井戸」への補助制度について

- (1) 防災井戸設置への補助制度や協力井戸の登録についてどのように考えているか。

#### 3 災害時における妊産婦・乳幼児の専用避難所について

- (1) 妊産婦や乳幼児を抱える家庭について、どのような基準で「特に配慮が必要な方」と判断し、一般避難所から福祉避難所への移送を行うのか。

- (2) 一般避難所において、授乳スペース、調乳環境、衛生環境や夜間の対応等について十分な環境が確保できるのか。
- (3) 市として、ホテル、旅館、医療機関や民間施設等と連携し妊産婦や乳幼児が避難できる場所を平時から確保する考えは。

#### 4 避難所運営のデジタル化について

- (1) 本市では、避難所における受付、名簿作成、要配慮者等の把握について、どのような方法で行うのか。
- (2) 避難所受付のデジタル化について、導入に向けた調査、検討を行うべきでは。

#### 5 愛知県パーキング・パーミット制度の推進について

- (1) 愛知県パーキング・パーミット制度について、市はどのように認識しているのか。また、市民周知はどのようなか。
- (2) 市内の公共施設には、制度対象となる障がい者等用専用駐車区画がいくつかあるが、パーキング・パーミット制度への登録推進を図るべきでは。
- (3) 市内の民間事業者に対し、制度の周知や登録促進を行う考えは。

### 6 梅村 均 議員

#### 1 課題解決に向けたスポーツ施策を進める上で支援体制は充分か

- (1) スポーツ施策を推進する組織体制の現状は。
  - ① 岩倉市スポーツ協会、岩倉市スポーツ推進委員、岩倉市スポーツレクリエーション協会、岩倉スポーツクラブの主な役割や関係性をどう捉えているか。
  - ② これらの団体における理事・役員等の兼務の状況は。
  - ③ スポーツ推進委員を定数に近づける必要があるのではないか。
  - ④ スポーツ振興における担当課としての役割はどのようになっているか。
  - ⑤ 指導者の高齢化や人材不足の課題に対する対策はどのようなか。
- (2) 総合型地域スポーツクラブ事業への支援は充分か。
  - ① 設立された経緯は。
  - ② 会員数の現状と変化の傾向、会員確保策は。
  - ③ 正会員（クラブ経営に携わる資格を有する会員）はどのような方で構成されているか。
  - ④ 会員となっている市職員の人数は。
  - ⑤ クラブの活動財源をどう見ているか。充分か。
  - ⑥ クラブの将来展望や担当課としての支援をどのように考えているか。例えば、各種スポーツ団体役員や事務局の統合（管理運営の効率化、予算配分の適正化）、指導者のシェアリング等の考えは。
- (3) アデリア総合体育文化センターアリーナへのエアコン設置を。

- 2 中学校部活動の地域連携・地域移行は進んでいるか。（令和10年9月～すべての種目で地域展開を計画）
  - (1) 岩倉市認定地域クラブ「ラントレ」の現状は。（認定地域クラブ制度と認定経緯も含む。）
  - (2) 令和6年2月につくられた岩倉市における中学校部活動の地域連携・地域展開推進計画（令和8年4月改訂）にある受入可能な団体12団体への移行状況はどのようなか。
  - (3) 岩倉スポーツクラブの活動時間は、ホームページを見る限り、平日の午前中と夜間、土曜日の夜間であるが、学校の活動時間に合わせ平日放課後の時間帯に活動することは困難か。（小中学生の部との兼ね合いは。）
  - (4) 学校で行われている活動を地域に移行する考えが中心か。地域にある活動を学校が取り入れることも必要ではないか（例えば、桜保全、五条川親水事業、まちのにぎわいづくり、山車など伝統文化継承、各種サークル、地縁組織など、市民団体は様々あるが）。また、紹介団体との調整はどのようなか。

## 7 榎谷 規子 議員

### 1 学校給食無償化の拡大を

- (1) 中学校給食無償化を。
- (2) 小学校給食無償化の制度のはざまで取り残されている子どもはいないか。
  - ① 特別支援学校に通っている子は。
  - ② アレルギーのためにお弁当持参の子は。
  - ③ 不登校の子は。

### 2 トイレに生理用品の設置を

- (1) 県立高校のトイレに生理用品の設置があたりまえになってきている現状をどうみるか。
- (2) まず、中学校のトイレに生理用品の設置を。
- (3) 公共施設での生理用品の無償配布はいつ、なぜ、なくしたのか。
- (4) 公共施設にも生理用品の設置を。

### 3 自衛隊をめぐる市の対応について問う

- (1) 夏休み親子企画「防災講習会」の開催背景を問う。
- (2) ふれ愛まつりなどの市のイベントへの自衛隊の参加について問う。
- (3) 自衛隊募集の名簿提供の自治体の減少についてどうみるか。
- (4) 名簿提供の取りやめを求める。
- (5) 除外申出の周知、結果について問う。

## 8 鬼頭 博和 議員

1 医療的ケア児支援法改正を踏まえた本市の支援体制について

- (1) 「18歳の壁」への対応についてどのような支援体制を考えているのか。
- (2) 家族の休息支援（レスパイトケア）の充実をどのように考えているのか。
- (3) 医療的ケア児の教育環境の整備はどのようなか。
- (4) 医療的ケア児・者の就労支援はどのようなか。
- (5) 本市における支援体制の整備は行われているのか。

2 災害時における応援職員の受入れ体制について

- (1) 本市は人的応援の受入れに関する具体的な受援計画を策定しているのか。また、計画の対象業務等はどのようなか。
- (2) 避難所運営、住家被害認定、罹災証明書交付、被災者相談などについて、災害時に必要となる職員数と、不足が見込まれる職員数を事前にどの程度見込んでいるのか。
- (3) 災害時相互応援協定を締結している自治体に、人的応援を要請する判断基準、責任者、県や協定自治体への要請ルートは明確になっているか。
- (4) 応援職員の受入れを統括する体制、指揮命令の方法は整備されているか。
- (5) 受援計画の実効性向上のため、全庁的な訓練を行い、その結果を踏まえて計画を見直す考えはあるのか。

9 塚崎 海緒 議員

1 不登校児童・生徒の学習評価と進路保障について問う

- (1) 不登校児童・生徒の学習成果は、どのように評価されているか。
- (2) 登校が困難な児童・生徒の学習成果を評価する機会は、どのように確保されているか。
- (3) 学習評価や学習支援について、学校間で差が生じていないか。
- (4) 長期欠席者等にかかる高校入試の配慮について、本人・保護者へどのように情報提供しているか。
- (5) 不登校児童・生徒の希望する進路選択をどのように支援しているか。

2 市役所開庁時間短縮後の検証について問う

- (1) 開庁時間短縮による市民サービスへの影響をどのように把握しているか。
- (2) 開庁時間外に行政サービスを必要とする市民への対応は十分か。
- (3) デジタル化・業務効率化を含め、開庁時間短縮による職員の働き方への効果をどのように検証しているか。
- (4) 開庁時間短縮による会計年度任用職員の勤務条件への影響はどうか。
- (5) 開庁時間短縮による議会傍聴への影響をどのように考えているか。
- (6) 市民及び職員への影響を踏まえ、開庁時間を今後どのように検証していくか。

3 持続可能な有害鳥獣対策について問う

- (1) 本市における有害鳥獣の出没・捕獲状況と現在の対応体制について問う。
- (2) 出没・捕獲情報をどのように蓄積・分析し、予防的な対策につなげているか。
- (3) 有害鳥獣捕獲を担う人材の現状と、今後の担い手確保について問う。
- (4) 狩猟免許取得者の育成及び取得費用を支援する考えはないか。
- (5) 専門的な捕獲人材の育成や近隣自治体との広域連携について、市の考えを問う。

## 10 関戸 郁文 議員

- 1 開庁時間短縮における改善効果の目標と今後の業務改善方針について問う
  - (1) 開庁時間の短縮による改善効果目標はどのようなものか。
  - (2) 現在の状況を踏まえ今後の方針はどのようなか。
- 2 本市の所有する建物のセキュリティ状況について問う
  - (1) 本市におけるセキュリティにおいて現在の状況はどのようなか。
    - ① 市役所はどのようなか。
    - ② 公立学校はどのようなか。
    - ③ 公立保育園はどのようなか。
  - (2) 建物の構造上、物理的に安全の確保が難しいものもあるが、今後どのような対策をするのか。
- 3 本市における保育園の保育の質の向上について問う
  - (1) 五条川小学校区統合保育園において保育の質を担保するための施策はどのようなものか。
    - ① 北部保育園の保育の質はどのようなか。
    - ② 仙奈保育園の保育の質はどのようなか。
  - (2) 保育の質を向上させる施策はどのようなか。
    - ① 「保育士支援アドバイザー」による巡回支援を実施しているか。
    - ② 「保育事業者支援コンサルタント」による巡回相談を実施しているか。
    - ③ 保育士などを対象とした働き方改革の啓発セミナーや実践例を用いた研修会等を開催しているか。
    - ④ 公開保育の実施や各施設の実践報告、実践を深めるための協議などを通じ、保育を多角的・多面的に捉え、継続的に保育について対話を重ねていくためのネットワーク会議を開催しているか。

## 11 大野 慎治 議員

- 1 育休カバー手当（育休応援手当）を創設するべきではないか
  - (1) 育児休業を取得する職員の給与はどのようなになっているのか。
  - (2) 本市においても育休カバー手当（育休応援手当）を創設するべきではないか。

- 2 児童遊園の今後のあり方について問う
  - (1) 児童遊園を開設してきた経緯は。
  - (2) 岩倉市が土地を所有する児童遊園と借地契約の児童遊園の数と違いは。
  - (3) 児童遊園の利用者数の調査はしているのか。
  - (4) 利用者が少ない借地契約の児童遊園は閉園するべきではないか。
- 3 高齢者見守り家族支援サービスを充実するべきではないか
  - (1) 現在の利用者数は。
  - (2) 一宮市が導入したGPSを内蔵したインソールを本市でも導入してはどうか。
- 4 今後の第六児童館のあり方について問う
  - (1) 現状について問う。
  - (2) 改修工事が必要ではないか。

## 12 堀江 珠恵 議員

- 1 女性の健康を向上させる取組について問う
  - (1) 女性には、月経、妊娠・出産、更年期、閉経後の変化など、ライフステージごとに異なる健康課題がある。本市は、20代から50代までの女性の健康課題を、年代別にどのように捉えているか。
  - (2) 月経に伴う不調、貧血、やせ、婦人科疾患、更年期症状、骨量低下、こころの健康などについて、本市ではどのような調査、健診、相談等から実態を把握しているか。また、年代別に分析しているか。
  - (3) 更年期に関しての相談件数はどれくらいか。また、市はどのように分析しているか。
  - (4) 更年期症状や生活への影響を確認し、必要に応じて個別相談、生活支援、適切な医療機関への受診につなげる仕組みも必要ではないかと考えるが、市の見解はどうか。
  - (5) 大阪府泉大津市の取組を参考に、本市でも症状、生活・就労への影響、医療機関の受診状況、市の相談窓口の認知度等を把握し、その結果を今後の健康いわくら21の取組に生かしてはどうか。
- 2 新型インフルエンザ等対策行動計画について
  - (1) 新型コロナへの対応を経て、国はどのような課題を認識し、今回の行動計画を改定することになったのか。また、それを受けて本市は今回の計画改定をどのように捉えているのか。
  - (2) 今回の計画には、「国民生活及び社会経済活動への影響の軽減」とともに「基本的人権の尊重」が目標として掲げられているが、市はどう考えているのか。
  - (3) 本市では、こうした状況が高齢者の身体機能や介護予防、また、子どもの心身や不登校などにどのような影響を与えたと分析しているか。

- (4) 感染症危機では、外出自粛や施設利用制限など、市民生活や自由に大きな影響を及ぼす対策が行われる可能性がある。本市では、感染症対策を実施する際、市民の基本的な人権をどのように守っていくのか。
- (5) 本市では、ワクチン接種を希望する人が接種できる体制を確保すると同時に、ワクチン接種を希望しない人もいる。市民一人ひとりが十分な情報を得て、自ら判断できる環境をどのように確保していくのか。
- (6) 市民が日頃から健康を維持することも、感染症を含めた健康危機への備えの一つではないかと考える。日常の健康づくりを、感染症危機に備える平時の取組として、市民に発信していく考えはあるか。

### 3 成長期の子どもたちの栄養と学校給食について

- (1) 「給食が少なくなったように感じる」との声を聞くが、成長期の児童・生徒に対して、現在の給食量や栄養量が十分であるかを、どのように評価しているか。
- (2) 思春期は骨や筋肉、血液など身体が大きく成長する時期であり、厚生労働省の「日本人の食事摂取基準（2025年版）」でも、12歳～14歳ではカルシウムや鉄など成人以上の推奨量が設定されているものがある。本市では、こうした思春期特有の栄養課題を学校給食の中でどのように捉えているか。
- (3) 本市では、肥満傾向だけでなく、痩身傾向や貧血なども含め、児童・生徒の実際の栄養状態をどのように把握し、給食に反映しているか。
- (4) 同じ量、同程度のエネルギーの中で、より必要な栄養素を摂取できる「栄養密度」という観点から給食を考える必要があると思うが、本市の見解は。
- (5) 本市では中学生の米飯を一食100gとしているが、精白米100%とするだけでなく、主食そのものの栄養密度を高めるという観点から、玄米などを一定割合混ぜることについて検討したことはあるか。
- (6) 愛知県学校給食会では、子どもたちがおいしく食べられる割合として、白米7割・ロウカット玄米3割の配合を試している。米飯量を増やすことなく主食の栄養密度を高める一つの方法として、まず一定期間主食の見直しを試行してみてはどうか。

## 13 伊藤 隆信 議員

### 1 震度7の熊本地震の被害を教訓にして、本市の地震対策について

- (1) 2016年に2回の大地震、そして今回の震度7の地震で大きな被害が発生したが、本市の今後の地震対策を問う。
- (2) 過去において、濃尾断層帯を震源とした濃尾地震は、マグニチュード8.0で岐阜県、愛知県、両県を中心に大きな被害が起きたが、被害の状況を問う。
- (3) 南海トラフ地震は「今後30年以内に60～90%程度以上の確立で発生する」と言われているが、もし、内陸地震で震度7クラスの地震が発生した場合、本市の被害状況を問う。
- (4) 熊本地震では、大型ショッピングモールのガス爆発等で二次災害が発生したが、都市ガス、LPGガスの対策を問う。
- (5) 地震の被害状況により、車の中で寝る被害者の対策を問う。

(6) 防災グッズ、防災DIYによる災害の備え、防災対策の強化を問う。

2 千葉豪雨の被害を教訓にして、本市の豪雨対策について

- (1) 過去において、東海豪雨が起きたが、千葉豪雨との発生状況、被害の違いを問う。
- (2) 東海豪雨後の本市の豪雨の取組を問う。
- (3) アンダーパス、地下通路の浸水対策を問う。
- (4) 地下貯水槽の現状と災害時の防災機能を問う。
- (5) 車が水没した時の対処と脱出についてを問う。

3 有害鳥獣の対策について

- (1) カラスによる農作物の被害、生ごみの被害が最近目につくが、対策を問う。
- (2) アライグマ、ハクビシンが民家や空き家に住み着いて増加しているが、現状と対策を問う。
- (3) キツネが南部の五条川沿いに住み着いて一部被害も出ているが、対策を問う。

4 特殊詐欺の対策について

- (1) 闇バイトを通じて、実行役として利用される青少年の現状と対策を問う。
- (2) 未成年であっても特殊詐欺は犯罪であり、法的な責任があるが、現状を問う。
- (3) 多様化する特殊詐欺から青少年を守る対策を問う。
- (4) 被害者については、高齢者の割合が高いが、高齢者を守る対策を問う。

5 地球温暖化が市民に及ぼす影響について

- (1) 猛暑が増加する中、熱中症の対策、救急搬送の状況を問う。
- (2) 2100年には、世界の平均気温が最大4度以上上昇することが予測されている。猛暑や大雨、台風の自然災害が増加し、農作物への影響や生態系の変化が懸念されるが、地球温暖化防止への対策を問う。
- (3) 高齢者の熱中症が多い現状と対策を問う。

14 片岡 健一郎 議員

1 災害時応援協定の実効性を高めるための改善策について

- (1) 岩倉市は様々な企業、団体、自治体等と災害時応援協定を締結している。協定にはどのようなものがあり、いくつ締結しているのか。
- (2) 多種多様な協定を結ぶことは市民の安心安全を確保する上で重要である反面、災害時応援協定が実際に機能することが前提となる。市は協定の実効性に関するリスク（人員不足・物資不足・連絡不能等）をどのように把握し、評価しているか。
- (3) 協定先が災害時に提供可能な資源（物資・人員・車両等）の最新情報を岩倉市が把握するため、年1回の簡易報告を求めるような制度を設けることを提案するが、市の見解を問う。

- (4) 協定を紙の約束から実動体制へ転換するため、協定先を含めた合同訓練を実施し、訓練結果を協定改善に反映することも可能かと考えるが、市の見解を問う。
- (5) 災害時の連絡不能を防ぐための連絡網の確認や協定の質を継続的に高めるため、協定先と市が定期的に協定内容を点検する「災害時協定点検会議」を設置することを提案するが、市の考えを問う。

## 2 中日ドラゴンズ二軍本拠地誘致について

- (1) 中日ドラゴンズ二軍本拠地候補地の一次審査を通過したことについて、どのように受け止めているか。
- (2) 二次審査に向け、岩倉市の強みとして何をアピールしていく考えか。どのようなスケジュールで提案を作成するのか。
- (3) 財政面では他自治体との比較で厳しい条件も想定されるが、名古屋市に近接し、鉄道・高速道路など交通アクセスに優れた立地条件やコンパクトシティとしての利便性などの財政力以外の価値をどのように提案していく考えか。
- (4) 市民・企業・各種団体が一体となって誘致を応援する機運醸成について、市の考えは。具体的な取組の考えはあるか。
- (5) 中日ドラゴンズ二軍誘致にかける市長の意気込みを問う。